

単科精神科病院における 完全禁煙実施の試み

医療法人社団 五稜会病院

○矢崎 秀幸 内崎 賢 松田 幸枝
和田 加奈子 中田 貴子 春名 奈央子
土屋 由美子 田中 倉一 中島 公博

第4回日本禁煙学会 札幌市 平成21年9月12日

五稜会病院の概要

- 札幌市北区に位置する単科精神科病院
- 精神病床 193床
急性期病棟38床
療養病棟107床(開放54床 閉鎖53床)
ストレスケア・思春期病棟 48床
- 附属施設
デイケア 70人+50人
共同住居



喫煙対策プロジェクトチーム

- 平成20年9月
禁煙化実施のためのプロジェクトチームを組織
メンバーは医師・看護師(師長、主任含む)
事務長・作業療法士・スポーツインストラクター
- 喫煙対策プロジェクト会議を定期的(月1回~)に
開催、『タバコの害の無い治療環境づくり』と
敷地内禁煙を目標にし、問題点・対策を検討

各部署ごとの特性を考慮し、禁煙化を達成するために
現場のスタッフがそれぞれ適した方法やタイミングで
検討・実施できることが最大のメリット

禁煙化までの流れ

- 当初考えられた問題点
 - 1) 精神科では患者の理解を得るのに時間を要し、
依存や長期化した喫煙習慣を持つ方が多い
 - 2) 閉鎖病棟での長期的・社会的入院患者の精神的
負担が大きい
 - 3) 長期喫煙習慣のあるデイケア通所者の居場所が
なくなり、通所をしなくなる可能性
 - 4) 隠れ喫煙などによる火災等事故への対策
 - 5) 病院周辺での喫煙が増え、近隣住民とのトラブル

長期間喫煙している方への対応が課題と考えられた

喫煙に関する調査①

○質問紙によるアンケート調査

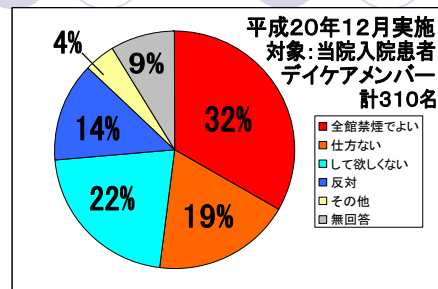
	平成20年9月実施	平成20年	平成16年
急性期病棟	対象32名 喫煙者14名	43.7%	← 40.0%
療養病棟	対象96名 喫煙者39名	40.6%	← 52.4%
ストレスケア・思春期病棟	対象44名 喫煙者28名	63.6%	—
デイケア	対象196名 喫煙者78名	39.7%	← 52.8%
職員	対象150名 喫煙者46名	30.6%	← 31.3%

全体 **43.6%** ← 40.2%

全国平均と比較しても高い喫煙率であった

喫煙に関する調査②

Q:院内禁煙についてどう感じますか?



半数以上が禁煙でよい、仕方ないと禁煙化に肯定的な回答。
反対意見を持つ36%の方に対する理解を得るための対策を
検討・実施した

患者・施設利用者への説明会

- 禁煙化に関する説明会を企画、実施
- 療養病棟、急性期病棟、デイケアで実施（思春期ストレスケア病棟では個別説明）
- 禁煙化の経緯、喫煙に関する調査結果、環境整備や情報提供、支援体制の説明、禁煙のメリットを説明



禁煙グループワーク

- 長期入院喫煙患者に対するグループワークを実施
 - ・禁煙のメリットや禁煙のための工夫などを話しあい、グループで禁煙にチャレンジ

長期間の喫煙習慣があった入院患者が禁煙に挑戦、禁煙に成功する例が多く見られる

院内禁煙から敷地内禁煙へ

- 禁煙化への環境整備
 - 喫煙所の撤去、改修工事
 - トイレに熱感知センサーを設置
- 院外での喫煙マナー啓蒙活動
 - 職員による吸殻拾い運動
- 禁煙サポート通信発行
- 禁煙外来の保険適用化（日本禁煙学会認定医が担当）

平成21年4月 病院建物内禁煙



平成21年8月 病院敷地内禁煙

喫煙所の撤去・改修工事

喫煙者の方にも理解していただける用途へ

- 利用者より要望があった授乳室、キッズルーム
- 病棟からの要望であった面談室
- 車椅子でも使用できるトイレ



院外での喫煙マナー啓蒙

- 禁煙化実施後も禁煙の実行や継続が困難と予想される方や 不安を感じている方に対して実施
- 病棟・デイケア等院外での喫煙が可能な方に対して携帯灰皿の使用や喫煙時のマナーを指導
- 職員が吸殻拾いをしながら院外での喫煙者に対して協力をお願いしていく運動を実施

吸殻のポイ捨てや集団での喫煙、長時間の屯が減少した



禁煙サポート通信

- 当院の禁煙化についての周知や、禁煙チャレンジを実践する入院患者、施設利用者を支援する目的で喫煙や禁煙に関する情報提供を実施



当院内部の情報だけではなく、社会一般的な禁煙を取り巻く環境なども盛り込んだ情報を提供する

まとめ ～敷地内禁煙化後の状況～

- 当初考えられていた問題点に関して
 - 様々な対策を実施した事で入院、外来共に理解を得ることができ、良好な状況で禁煙環境に移行できた
 - 院外での喫煙マナーによるトラブルは殆ど無い
 - 夜間の隠れ喫煙がしばしば見られるが、特定の個人レベルであり、個別的関わりで解決できている

社会全体の喫煙に対する意識の変化が当院の禁煙化対策を後押しし、理解を得る際に良い影響をもたらした。今後も継続した喫煙に対する環境整備や安全管理、禁煙支援は必要であるが、時間をかけて行うことで周知や理解も深まると思われる。